

令和六年四月号

初蝶

佐怒賀正美

乗客の素手それぞれに光る春
死に顔に入らぬ入れ歯春のくれ
春三番さいごの顔をととのへる
父の魂揚がり試しの雲雀かな
初蝶とまだ飛び慣れぬ父の魂

令和六年三月号

自由

佐怒賀正美

二月十九日 父・佐怒賀一美死去

九十七の末期の夢か父の梅

春なれやなほ打つ父の終の脈

梅日和天寿しづかな息に尽く

春めくや天寿の魂の抜けてゆく

父の魂なり春の引力から自由

令和六年一・二月号

冬

佐怒賀正美

気まぐれな母の海馬も聖夜かな
パスタ・アラビアータ宇宙の端の聖夜

十二月三十日檜山哲彦さん逝去 七十一歳

彼の世へとひらく光を冬にのこす
空からも降りくる小虫冬ざれ野
竜パフの尾に跳ね上がり初笑ひ